

理科の授業づくり（1時間の授業の流れ） 理科の授業では、自らの予想をもたせることが大切

1 課題の把握

- ①資料提示 興味関心を喚起し、好奇心をくすぐる資料を提示する。
- ②生活体験との関わり できる限り多くの場면을想起させる。
- ③学習問題の発見 何を調べるのかを明確化する。



2 予想をもたせる

- ①ノートへの記入 マーキングやメモ書きをさせる。
 - ②全体での共有化 自分の予想を黒板に明示させる。
 - ③予想の理由 なぜそう思うのかを一言述べさせる。
- ※児童生徒一人一人に、予想をもたせた上で、実験に取り組みさせる。

3 実験をする

- ①実験器具の確認 器具名や操作方法を、しっかりと把握する。
- ②もの作りで工夫 小道具は、実験への興味関心を向上させる。
- ③ねらいとの照合 常に何を調べるのかを念頭におく。



4 結果



- ①結果の記入 図示と言葉で簡潔に記入
- ②I C T の活用 結果の共有化を図る

5 考察

主体的・対話的な学びで思考力・表現力を高める



授業の質を高める教材研究

- 1 子どもの実態を知る。
（生活体験を引き出す）
- 2 指導内容を十分に理解する。
（科学的用語を用いる習慣）
- 3 授業で活用する教材を選択する。
（もの作りから興味関心）
- 4 指導計画を設計する
（単元で身に付けたい力は何かを学習指導要領で確認）

この学習過程（児童生徒が自ら問題を見出し、解決するためのプロセス）は単元全体でも一単位時間でも活用可能です。日常生活といかに関連付けさせるかが**授業成功のポイント**です。

学級活動（１）の授業づくり 学級会では、児童生徒によりよい集団決定をさせることが大切

1 議題の選定

議題ポストの設置、朝の会や帰りの会で提案カードを書き、議題を集めます。

- ①多くの児童生徒が早急な解決を望む議題
- ②学級や学校生活をよりよいものにする議題
- ③創意工夫の余地がある議題
- ④決めたことを自分たちの力で具体的に実行できる議題
- ⑤学級内の問題で、学級全員で協力しなければならない議題



※集まった議題について、学級生活の充実や向上のために、「全員で話し合うべき問題かどうか」「自分たちで解決できる問題かどうか」などの視点で考える。

計画委員は輪番制で行い、どの児童生徒も経験できるようにします。



2 計画委員会

- ①議題の募集 学級の問題を見つけられるように声をかける。
- ②議題の選定 学級の実態や行事を踏まえ条件に従って整理し選定する。
- ③議題の決定 整理した議題を知らせ、学級会で話し合う議題を決める。
- ④計画の作成と諸準備

学級会の役割分担を確認し、提案理由を明確化する。また、「話し合うこと」の柱を決め、学級会コーナーで全員に知らせる。

4 事後の活動

①話し合ったことの確認

学級会が行われたその日の帰りの会や翌日の朝の会などで、学級会で決まったことを確認することが、事後の活動を確かなものにする上で大切です。

②実践

「みんなで話し合っただけで決めたことは、必ず協力して実践する」ということを徹底することで、学級の一員としての意識や所属感が高まります。



③振り返り

実践後、感想を発表し合ったり、振り返りカードに書いたりして、実践したことや反省すべき点など全体の振り返りを行い、お互いの頑張りを認め合うようにします。

3 話し合いの進め方（三段階討議法）

「出し合う」段階では、賛成意見や反対意見を述べるのではなく、様々な意見を発表することが大切です。その考えを理解するために質問することはあります。

①出し合う

提案理由や話し合いのめあてに沿って、自分の考えを自分の言葉で発表できるようにします。



最も時間をかけたい段階です。

②くらべ合う

多様な意見を分類・整理し「くらべ合う」ことによって、よりよい取り組み方を探っていきます。



意見が異なっていれば、提案理由に立ち返り、「両方のよいところを合わせられないか」「よいところを取り上げて新しいものを生み出せないか」などの視点から話し合います。

③まとめる

話し合いを収束し、学級みんなの総意をまとめるようにします。「まとめる」段階では、「みんなが納得できる意見を選ぶ」「条件付きで納得すること」などが必要となります。